

中学生、高校生、大学生、看護師を対象とした反す うと自尊心の検討

著者	江口 実希, 石田 実知子, 國方 弘子
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	13
ページ	4-4
発行年	2019-10-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1492/00001055/

1-R-4

中学生、高校生、大学生、看護師を対象とした反すうと自尊心の検討

江口実希¹⁾

石田実知子²⁾ 國方弘子³⁾

＜背景・目的＞ “反すう”とは、自身の失敗や嫌な事について受動的に考え続ける行動をさし、自己評価の低下、自尊心の低下、心理的不適応の原因となる。

本研究では、心理的不適応のリスクが高い青年期の学生と看護師を対象に“反すう”が自尊心に与える影響と属性による差を検討した。

＜方法＞ 中学生・高校生・大学生・看護師を対象に自記式質問紙調査を行い、データに不備のない953名を分析対象とした。調査項目はネガティブな反すう尺度、自尊感情尺度、属性で構成した。はじめに、因果モデルを用いて反すうと自尊心の関係を整理し、次に、反すうと自尊心の得点の差を属性ごとに比較した。

＜結果＞ 反すうと自尊心の因果関係モデルのデータへの適合度は統計学的に概ね良好な値であった(RMSEAが.061、CFIが.939)。中学生、高校生は、看護師(P<.000)、大学生(P<.000)よりも有意にネガティブな反すう傾向が低かったが、ネガティブな反すうのコントロールは、属性差が見られなかった。看護師の肯定的自尊心は、中学生(P<.000)、高校生(P<.000)、大学生(P<.000)よりも有意に低く、否定的自尊心は、大学生(P<.000)、高校生(P<.000)、中学生(P<.000)よりも有意に高かった。

＜考察＞ 反すうは“仕事”“学業”“人間関係”が主題となることが多い。大学生や看護師は、中学生、高校生と比べ、仕事やアルバイトを通じた社会との関わりや、複雑な対人関係による葛藤の増加から、反すう傾向が強く示されたことが推察される。

1) 保健科学部看護学科 2) 川崎医療福祉大学医療福祉学部看護学科

3) 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科